

参加費無料！親子 15 組限定！（先着）
恋瀬川探検ジオツアー参加者募集

恋瀬川には
生き物が
たくさん！
Let's Go!

いしおかの 大地を歩く

第 3 回 龍神が住む山（龍神山）

2 億年をさかのぼる石岡市の大地の物語を訪ねる歩き書きのシリーズ。全 8 回の掲載です。



日時／7月30日（土）午前9時～午後3時30分
集合場所／いしおかイベント広場（その後バスで移動）
服装／動きやすい服・履き慣れた靴・帽子など
持ち物／昼食・飲み物・タオル・着替え・ビニール袋
申込期間／7月4日（月）～11日（月）
■申し込み・問い合わせ 政策企画課 ☎23-1111（内線226）

龍神山の麓、常陸風土記の丘付近には宮平遺跡があった。縄文・奈良・平安時代の遺跡で、東日本でまれな弥生時代の巴型銅器と呼ばれる飾り金具が見つかり注目された。鹿の子遺跡展示館①（有料）では鹿の子遺跡出土物や復元建物が展示されており、宮平遺跡などの出土物も見学することができる。

山からの湧水が谷筋を流れ、金山池に注いでいる。豊かな水と高台の地形が原始古代からの生活を支えていたことが想像できる。宮平遺跡では奈良時代の製鉄炉が見つかっている。製鉄跡は見る事ができないが、池に注ぐ流れには黒く集まっている砂鉄が見られ、池の端に露出している砂層②に赤さびた砂鉄の層が見られる。地層が作られた当時の海岸で波が寄せ集めた砂鉄である。金山池の名は製鉄との関係が感じられる。

ここは神社境内となっている。薄い板状に割れやすい黒い岩がぼこっと盛り上がり、この岩石はジュラ紀の海底の泥の層で、2億年近く前のものだ。そのころの大陸の縁に寄せ集まった地層が、地下の熱や圧力によって結晶質の岩石（変成岩）に変わっている。ざらつとした光沢は細かな雲母の結晶の輝きである。黒雲母が集まったゴマ粒のような斑紋が特徴で、これに似た岩石が古墳の石の棺に使われていることが知られている。波付岩の名のとおり、この岩が波に洗われていたとすると、それは約30万年前のことになる。石岡の街を乗せた台地を作った海よりさらに古い海の時代だ。岩の前の道の石碑には染谷と根小屋の村名が刻まれ、大正時代まで交通路として機能していたことが分かる。



キャンプ場を過ぎて広域農道を進むと、ふれあいの森④がある。坂の上の広場には地層が露出している。この地層

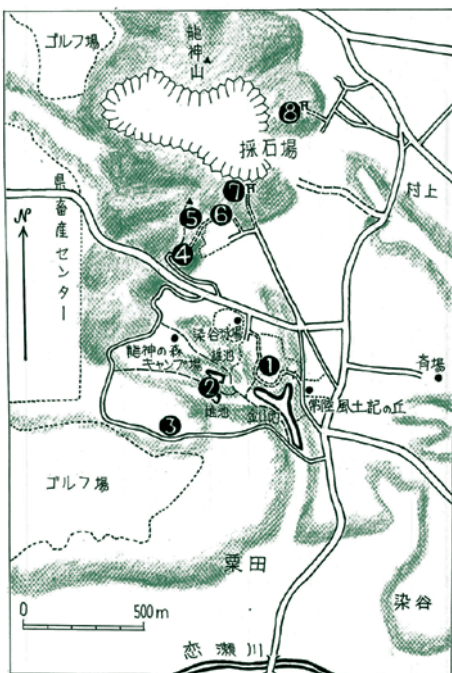
は砂と泥が交互に重なっており、濃淡の縞模様を作る。変成岩ながら、深海底になだれ下った砂泥の堆積の様子がよく分かる貴重な場所だ。山の南面はスタジイやカシ類などの暖地性の常緑広葉樹の森⑤で、森の中は昼でも薄暗い。龍神山霊園⑥から平野を一望して、この平野が海だった時に龍神山麓を波が洗っていた事を感じてみよう。余力があれば急な石段を登って龍神をまつる染谷佐志能神社⑦（雌龍）に向かう。堆積模様がみえる岩壁があり、注連縄が掛かっている。岩壁から出ている御神水は絶えているが、かつては村々に持ち帰って雨乞

恋瀬川探検ジオツアーの案内人も務めます！



文 環境省委嘱
自然公園指導員
矢野徳也

いを行ったという。採石場を挟んで北側には村上佐志能神社⑧（雄龍）がある。近頃、西の畜産センター内に、国土地理院のV L B I 石岡局が観測を開始した。遠い星からの電波を受信して、地球上の他局との距離を正確に計る事ができる。安定した観測のために、しっかりとした岩盤があることも設置の理由だという。



▲龍神山付近案内図